



IBARAKIドリームパス 企画提案書

2023



※事務局記入欄

チーム名	守谷高校 JRC 部
代表者	大嶋 優

企画名(全角50字以内)

困った時こそ手を取り合って！～地域とともにある守谷高校でいるために～

1 企画提案

ターゲット：守谷高校生を含めた守谷市民・守谷で被災する可能性のある人

コンセプト：たとえ被災しても助け合って生きていける、ほんとうの住みやすさ日本一を目指します。

将来構想：普段のボランティアを通して生まれる地域の方とのつながりを大切に、発災時にも安心安全な地域社会のために守谷高校生としてかかわる防災協定の締結。
災害を意識し、発災時にも助け合って生き抜ける人と人のつながりを作る。

2 企画設定の背景

これまで防災の研修を重ねてきた（R1：本校 JRC 部主催筑波大梅本先生とゼミ生の防災学習 R3：JRC 茨城県支社主催リーダーシップトレセン R4：日本青年会議所主催防災サミット R5：本校 JRC 部主催子ども防災ワークショップ）成果として、学んだことを地域の方々と共有し、生かす道を模索している。

TXの影響で都心へのアクセスもよく各社の住み心地ランキングで上位をキープする守谷市は、人口密度が1916人/k㎡で県内1位(2020年)である。近年の人口増に、市の災害支援物資や避難施設が追い付いていないのではないかと課題を知ったことをきっかけに、本校生として地域防災にどう関わられるか考えるようになった。

3 現状把握

課題点	説明
何を恐れ、何を準備すべきか？	東日本大震災を小学校入学前、関東・東北豪雨による鬼怒川決壊を10歳未満で体験した世代。地域防災に関心はあるものの、具体的・現実的なイメージをもって避難生活を想定することが難しい。
需要【市の被災者】 と 供給【県立の施設】	空き教室もあり、敷地にも余裕のある「県立」の本校を、「市の被災者」にいかにもスムーズに活用してもらえるか。

4 効果

本校は守谷市内に唯一の高校として、JRC 部が軸となり街の様々なイベントにボランティアとして積極的に関わってきた背景があり、活発な異世代間交流がある。また、まちづくりに対して積極的な市民が多く、特にシニア世代を中心に持ち前のスキルを活かした地域貢献が盛んである。

今回の防災・減災に関しての学びに際してお世話になった北守谷地区まちづくり協議会防災計画ワーキンググループのメンバーも、建築系の耐震診断を専門とされてきたシニア世代で、連携して取り組む道筋ができた。

まちづくりに貢献するシニア世代と交流することで、守谷市の現状を詳しく知るだけでなく、災害弱者への配慮と若者の視点が集約出来て双方にメリットがある。

5 目標の設定

【防災協定の締結】

チームとしても、守谷市としても防災協定の締結は最終的な目標の一つとなっている。

ただし、高校での授業時に発災した場合には、在校生は安全に帰宅することが第一に求められる。

そのため高校生としての活動は、発災から数日経った避難所の運営に協力できるようなサポートの立場が考えられる。

その際に必要になる段ボールベッドの組み立てをはじめとしたスキルアップを図るのが現実的なのではないか。

また、物資不足の中で生き抜く工夫をするために、サバイバル飯の調理実習を通して、たくさんの人に防災・減災に対する意識付けを図りたい。

6 今後の活動計画

時期	実践内容
4/29(土) 子ども天国 ブース運営	[新聞紙スリッパ]を作り避難時に足を守る重要性を知る
5/12(金) 守谷市長と対談	座談会：守谷市の課題と守谷高校の役割について 防災協定について
6/26(月) 防災倉庫点検	本校が避難所を開設した際に利用する倉庫内の点検 発電機等の作動確認
7/25(火) 避難所設営実証実験	近隣小学校にて、段ボールベッド設営と夜間照明に関する意見集約準備
8/ 1(火) 中学生向けワークショップ	筑波大梅本先生考案のゲーム 物資不足の中で生き抜く知恵について学ぶ
10月 サバ飯体験会	炊飯袋を使った調理実習：少ない準備物でお腹を満たす体験
12月半ば 小学生向けWS開催	近隣児童センターにて、防災・減災に関するワークショップ
1月半ば 校内プレゼンテーション	1学年に向けて、成果発表
R6 1月	第5回 プレゼンテーション大会 IBARAKIドリーム★パス AWARD